Gendai Medical Library 2021
ゲンダイ　メディカル　ライブラリー　もっと知りたい気になる健康のコト　特別版

高齢化が進む日本で、増え続けているのが不整脈である。不整脈のひとつである心房細動の患者数は約100万人と推定されており、心房細動を起こすと脳梗塞の恐れも高まるという。不整脈には、どんな兆候があるのか。どんな治療をすればいいのか。牧田総合病院「不整脈・失神センター」（東京・蒲田）の河村光晴医師に聞いた。

脳梗塞を起こす恐れのある不整脈、命に関わる不整脈はごく身近な病気！

『脳・心連携』が不整脈・失神治療のキーワード！

牧田総合病院が不整脈・失神センターを開設！

最新の血管撮影装置と3Dマッピング装置を使用した最先端治療を提供！

■河村光晴医師
米カリフォルニア大学サンフランシスコとGoodSamaritan病院留学で知識・技術を磨き心室性不整脈について日本の第一人者だ

「心房細動の不整脈は右肩上がりで増えています。特に高齢化が進んでいる地域では深刻な問題になっており、不整脈による失神（意識を失う）の患者さんも増えています」とは河村医師。

心臓の拍動は、電気信号によってコントロールされている。

しかし、心房細動では、異常な回路から電気信号が発生し、心臓の心房が1分間に400～600回も震えるように不規則に動き、正常な拍動ができなくなってしまうのだ。

「心房細動は、後期高齢者と呼ばれる75歳以上になると、10人に1人の確率で発症し、50代でも20～30人に1人の確率で発症すると言われています。心房細動が起こると、心房の中で血液の淀みができて血の塊ができやすくなり、その血栓が脳の血管を詰まらせ、脳梗塞を引き起こすことが少なくありません。心臓でできた血栓が原因でなる脳梗塞は、血の塊が大きいので深刻な脳梗塞を引き起こしやすく、半身麻痺や命に関わる事態につながる恐れがあるので、なるべく早く治療した方がいいのです」

脈が速くなるタイプの不整脈の場合、●心臓に負担がかかっている、●心不全の傾向がある、●脳梗塞の5つの危険因子（高齢、高血圧、糖尿病、以前に脳梗塞を起こしている、以前心不全を起こしている）を持っていると診断されたら、カテーテルアブレーション治療が必要になる可能性が高いのだそうだ。

「こうした症状や脳梗塞の危険因子を持っている場合は、日本の循環器医療の最新ガイドラインでもカテーテルアブレーション治療を推奨しています。また、この治療法が必要な場合、できるだけ早く行った方が成功率も高く、合併症のリスクも少なくなります」

入れる小型心電計を2週間着けてもらい、診断をします。脈が速くて血圧が下がる場合は、それが続くと失神やひどいと突然死する可能性があるので、早期に根治させる治療が必要です。脈が速くなるタイプの不整脈は、カテーテルアブレーション（カテーテル心筋焼却術）で根治が可能です」

根治するにはカテーテルアブレーション治療を推奨！

最近の医療では、「ブレインハート」と呼ばれる「脳・心連携」が注目を浴びている。脳卒中と不整脈・失神には、強い関連性があることが近年になって分かってきたのである。

「当病院は、脳卒中の患者さんを受け入れていることでは全国でもトップレベルです。その中で分かってきたのは、心房細動は脳梗塞を起こす確率が高いということです。そこで、『脳・心連携』をテーマに、脳卒中と不整脈、失神を連携して診断・治療していくことが大事だと考え、脳外科と不整脈・失神センターがコラボした医療体制をつくりあげ、治療に取り組んでいます」（河村医師）

「脳・心連携」で、脳外科と不整脈・失神センターがコラボで治療に取り組む！

不整脈には、命に別状がないもの、命に関わるものを含めて十数種類の不整脈があり、脈が遅くなるタイプと、脈が速くなるタイプ、脈が抜けてとぶようなタイプの3つがあると言う。

「基本的に、脈が遅くなるタイプでは、ふらつき・めまい、ひどい場合は失神して意識がなくなってしまいます。意識消失や心不全を起こすような場合は、きちんとした検査の後、ペースメーカー治療が必要になります。脈が速くなるタイプでは、動悸の症状が多く現われます。ただし、病院に駆け込んできたときには、動悸が収まり、心電図でも判断できないことも少なくありません。そういう場合は、長時間の観察が可能でお風呂にもくつろぐことができるけど、心臓の治療ができないのでは、患者さんのためになりません。

ちなみに、心臓のカテーテルアブレーションとは、治療用のカテーテルを太ももの付け根から血管を通じて心臓に挿入し、カテーテルの先端から発する高周波電流の熱によって、心臓の筋肉の中にある不整脈を起こさせている回路を焼いて閉じさせてしまう治療法である。

「この治療法は、今や多くの施設で行えるようになっていますが、重要なポイントは、心臓を透視する際の被爆をできるだけ少なくすることです。当院では、最新の血管撮影装置と3Dマッピング装置を使用しているため、透視時間を最小限することが可能であり低侵襲・低被爆でのカテーテル治療が行えます」

低侵襲・低被爆がポイント！

不整脈の手術に要する時間は、例えば、心房細動なら2～3時間。2泊3日、あるいは3泊4日の入院になるそうだ。

さらに河村医師はアメリカのカリフォルニア大学で知識・技術を磨き突然死する可能性のある危険な心室性不整脈に対しては日本で第一人者とのことである。

失神の経験がある方はもちろんだが、動悸が気になる方、めまい、ふらつきを心配している方は、早めに専門の病院で診てもらいたいものである。

脳神経外科医と循環器内科医がタッグを組み最先端の医療を提供！

社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院
理事長 荒井好範（脳神経外科専門医）

脳卒中の患者さんの5人に1人は心臓の病気を合併していると言われています。当院の脳卒中センターには年間200～300人の脳梗塞患者が救急搬送されますが、その3分の1は心房細動が原因で、心原性脳塞栓症といい、年々増加しています。

心原性脳塞栓症は発症すると強い麻痺や、寝たきりなど重い後遺症を残すことがあります。脳の疾患は治療できるけど、心臓の治療ができないのでは、患者さんのためになりません。

当院では脳神経外科医と循環器内科医がタッグを組み、脳と心臓それぞれの専門医が最先端の医療を提供しています。

社会医療法人財団　仁医会
牧田総合病院
東京都大田区西蒲田８丁目２０番１号
TEL 03-6428-7500　FAX 03-6428-7559

今年2月に新築移転した同院は、病床を増床し、検査から入院までを一貫して扱う救急部門をワンフロアに集結。強みのある脳卒中治療に加えて、脊椎脊髄疾患、不整脈・失神の診療と専門性の高い診療部門が充実している。急性期医療の提供と、地域住民が気軽に通える親しみやすさを兼ね備えた病院だ。